NEWS FROM ZION
シオンとの架け橋ニュースレター　第 24 号　2009 年 12 月（年 4 回発行）

アジア・メシアニック・フォーラム2009特集号

Asia Messianic Forum

アジア・メシアニック・フォーラム 2009 感謝報告

大会委員長・シオンとの架け橋代表　石井田直二

アジア・メシアニック・フォーラム 2009 にご参加、ご協力、またお祈りで支えていただいた多くの皆様、本当にありがとうございました。言葉に言い尽くせないほど祝福された集会となりました。

イスラエルから講師を招く働きは以前から行なってきましたが、3 人も同時にお招きすることは考えたことがありませんでした。しかし、3 人を別々の時期に招くために日程を調整していたところ、3 人とも秋を希望されたため 3 人の同時来日という話が出て来たのです。そんな大規模な集会は私たちの力に余ると最初は思ったのですが、これも神の御旨と受け止めました。同時来日は、様々な意味で良い結果をもたらす可能性があると示されたのです。

1）イスラエルは一部の人だけが興味を持てばよいテーマではありません。少しでも集会の規模を大きくし、注目を集めるのは良いことだと考えました。

2）多様性はユダヤ人の特徴なので、1人の話だけでは理解が偏ります。立場が違う 3 師が揃えば、運動の全体像を一回の集会で感じていただけます。

3）ユダヤ人と異邦人は、キリストにあって新しいひとりの人（エペソ 2:15）とされ、上下関係はありませんが、召命は微妙に違います。イスラエルからの 3 師と日本の講師が対等の立場で語り合えば、それを理解していただきやすいと考えました。

4）3 師が同時来日されれば、3 師と関係を持つ他のアジア諸国のクリスチャンも招けます。アジアからエルサレムに向う福音の「津波」を、実感していただける集会ができるでしょう。

5）メシアニック運動は、ユダヤの祭を祝うことで異端視されたり、イスラエル国家の行為に反対するという政治的理由から冷淡な扱いを受けたりしてきました。教派を越えて集まったクリスチャンが 3 師を兄弟として歓迎できれば、和解に向けた大きな一歩となります。

こうして項目別に書くと、何か綿密な計画があったかのようですが、そうではありません。この規模の国際的な集会など実施したことがなく、全く手さぐりの状態でした。

しかし、神の助けを祈っているうちに、次々に協力者が与えられ、扉が開かれていきました。多くの先生方から、助言や多大なご協力をいただきました。また、東京会場としては、中田重治師がイスラエル回復の祈りを教えた地である、ウェスレアン・ホーリネス淀橋教会の会堂をお借り出来ました。

そして、ビジョンを共有できる臨時スタッフが与えられたことにも感謝しています。さらに、日本を代表する多数のすばらしい先生方にメッセージを語っていただけることになり、開催協力団体として 100 を超える教会や団体が名を連ねて下さいました。

会場案内や受付、賛美奉仕なども、多方面の教会や団体の皆様にご協力をいただくことができました。紙数の関係で、全ての方のお名前をあげられないのが残念ですが、とても力を入れて準備をしていただいたことを感謝しています。イスラエルでも、3 師がエルサレム近郊に集まって特別に準備と祈りの時を持って下さいました。

最後まで気をもんだのが、アジアからの参加者でした。大会名にアジアを冠し、ビジョンは掲げて見たものの、アジア各国からの反応は無くあきらめかけたのですが、9 月に入って韓国、シンガポール、タイから相次いで参加の申込が入りました。シンガポールのギルバート師らは、インターネットで全く別の情報を検索していたところアジア・メシアニック・フォーラム 2009 のサイトが表示されたので神の意志だとして、参加を決断して下さったそうです。

そして迎えた大会当日、神は私たちの予想を超える御業を見せて下さいました。メッセージをお願いしたイスラエルと日本の先生方は、正確に神のビジョンをキャッチしていただき、的確なメッセージを語って下さいました。ユダヤ人と異邦人が共に「見よ。兄弟たちが一つになって共に住むことは、なんというしあわせ」（詩篇 133 篇）と歌うのを聞きながら、この詩篇の言葉がそのまま成就していることに気付き、主の御業を賛美しました。

東京会場では、アジア代表の会議も別室で行われました。全員が一致したのは、イスラエルのビジョンを理解するアジア諸国のクリスチャンが集まる必要性です。定期的にリーダーが集まる会を開催しようという話も出ました。

参加者から多数のアンケートをご提出いただき、感謝です。読むだけでも何時間もかかるほど、とても熱心に感想をご記入いただき、皆様の感動が直接伝わって来ました。イスラエルから、この集会のために来日されたメシアニック・ジューの女性は「今まで出席したクリスチャンの集会の中で一番良かった」と喜んで下さいました。

このような集会を開かせて下さった主に感謝し、ご協力、ご参加、お祈りをいただいた全ての皆様に感謝申し上げます。すでに次回という声も出ていますが、良い導きがあるよう、お祈り下さい。

見よ。兄弟たちが一つになって

アジア・メシアニック・フォーラム 2009 レポート

大阪の会場となった大阪コロナホテルは、ＪＲ新大阪駅から徒歩３分の場所。当日の朝７時頃から準備作業が始まりました。晴れで風も無く、集会には最適の天候です。

メイン会場は２階で約 500 席。サブ会場として確保した１階の部屋は、テレビで２階の映像と音声を流し、各種書籍等の販売コーナーとしました。

開会前 30 分には CGNTV の取材クルーの準備も完了し、いよいよ来場者の入場が始まりました。椅子の数があまりに多く、これが一杯になるのかとの不安をよそに、開会時刻には後ろの席まで人が座りました。

最初はイスラエルの重要性を語るツカヒラ師のメッセージ（本紙 6-7 頁）。次いで、各地宣教報告の後、眞鍋師の応答メッセージ（3 頁）。パネルディスカッションは初めての試みでしたが、ユダヤ人と異邦人が兄弟として語り合うことができました。夜は明解な中川師の解説メッセージ（3 頁）と、チャレンジに富むシュラム師のメッセージ（8-9 頁）がありました。

２日目はクリンゲンスミス師の導入メッセージ（4 頁）の後、ツカヒラ師の「神の津波」のメッセージ（日本語で訳書あり）。午後は韓国からの報告（5 頁右段）、シュラム師のメッセージ、そして法律家ならではの行澤師の応答（4 頁）、その後パネルディスカッション。夜の最後の集会は、シシコフ師のメッセージ（10-11 頁）で盛り上がった後、ユダヤ人と異邦人の「相互祝福」で閉幕しました。

移動日を挟んで行われた東京集会の会場は、最大 1000 人収容の淀橋教会。流れはほぼ大阪と同じでしたが、ツカヒラ師のメッセージは初日が「神の津波」。ツカヒラ師が初日の午後に韓国に発たれるためです。各地の宣教報告の後は、奥山師が宣教の専門家ならではの応答メッセージ（3 頁）を語って下さいました。

２日目の朝は、東京だけのインターナショナルアワー（5 頁）。各国の代表が興味深く感動的な報告を語って下さいました。午後には中田重治師以来のイスラエル回復の祈りを紹介する田中師のメッセージ（4 頁）があり、シュラム師の後、師の著書の推薦文を書かれた川端師が熱烈な応答（4 頁）を語って下さいました。夜の集会は、安息日を迎えるシシコフ師のユダヤ式祝祷が会堂に響き渡る中で始まり、感動の中で和解と相互祝福、そしてアロンの祝祷で閉会となりました。

会堂では、感動の醒めやらない参加者が遅くまで語り合い、イスラエルの講師らからは「歴史的な集会だった」との感想をいただきました。

アジア・メシアニック・フォーラム 2009

日程と会場　大阪　10 月 19 － 20 日　大阪コロナホテル　東京　10 月 22 － 23 日　ウェスレアン・ホーリネス淀橋教会

イスラエルからの講師　エイタン・シシコフ師 / ヨセフ・シュラム師 / ピーター・ツカヒラ師

日本からの講師（メッセージ、祈祷リード、パネルディスカッション）　アリエル・ブルーメンソール師 / 岩井満師 / 奥山実師 / 川端光生師 / 瀬戸偉作師 / 田中時雄師 / チャールズ・クリンゲンスミス師 / 中川健一師 / 早川衛師 / 眞鍋孝師 / 村岡大輔師 / 村岡丈夫師 / 行澤一人師

アジア諸国からのゲスト　ホン•スンウク師夫妻（韓国）/KIBI（韓国）/ One New Man Asia（シンガポール）/New Wineskin Ministry（タイ）

讃美奉仕　DUO TAKASE/ 京都グローリーチャーチ / 宝塚ゴスペルハウス / 登戸エクレシアキリスト教会 / いのちの木メシアニック集会 / 早川衛師・高矢研治兄

開催協力団体　イスラエルの団体：3、イスラエル関連ミニストリー：7、超教派団体・企業等：21、教団・教会・祈祷院等：72、計：103（詳細は http://www.am-forum.jp/ に掲載）

来場者数（資料配布数より算出）　大阪会場：530 名　東京会場：800 名

当日の席上・出口献金　大阪：1,434,310 円＋ 200 シェケル　東京：1,464,853 円＋ 21.26 ドル＋ 5 ユーロ　合計：2,899,163 円＋ 200 シェケル＋ 21.26 ドル＋ 5 ユーロ

登戸エクレシアキリスト教会 ゴスペルパイレーツの讃美

日本からの講師のメッセージ

眞鍋孝師（福音聖書神学校校長）

大阪・応答メッセージ

今日はイスラエルの方々からの宣教報告を聞くことができ、2000 年前にイエスさまが御国の福音を宣べ伝えたイスラエルの当時の光景が再来したような印象をもったのは、私一人ではないと思います。主なる神は、何と驚くべきことを約束の地で現在なさっていることでしょう。しかし、これはまさに聖書の預言の成就であると言えるのです。

イエス・キリストの福音はまずユダヤ人に語る必要がありました。ユダヤ人が福音を拒絶する中で福音宣教の比重は異邦人にシフトしましたが、現在、神はもう一度ユダヤ人に福音を伝えるチャンスを与えてくださっているのです。イエスさまは、マタイ 10:5 - 23 で再臨に近い状況まで語っておられます。多くの学者に支持されている一番自然な解釈は、23 節はキリストの再臨の時と解釈することです。

21 世紀の今、これらの先生方がイスラエルの地を巡って福音を宣べ伝えています。それは聖書の預言の成就であり、神の人類救済計画の完成のために必ずなされることになるものです。私たち日本の教会も、世界の教会とスクラムを組んで、神さまのこの御言葉の権威に応えて、諸国伝道と等しく、イスラエル伝道に当たっていく必要があるのではないでしょうか。

奥山実師（宣教師訓練センター所長）

東京・応答メッセージ

シュラム先生から教えられたことは、色々と反対があったが賛美歌をヨーロッパ式にするのをやめて、イスラエルのメロディーにして成功したということです。賛美は伝道において大事です。シシコフ先生から教えられたことは、「ユダヤ人はイエスさまによって本当のユダヤ人になる」という言葉です。「ユダヤ人は神の民だ」と思うので、何となく伝道しにくいのですが、彼らもイエスさまなしにはまともになれないのだと分かると、励ましになります。

一番心に残ったのはツカヒラ先生の言葉です。福音が入るまではヨーロッパ人は野蛮人だったのに、彼らは福音によって変えられたということです。そして、「日本にリバイバルが来て初めて、アジアのリバイバルが完成する」と言われました。日本にすごいことが起きてアジアのリバイバルが完成し、それがエルサレムに行くのです。

リバイバルの条件は教会の一致です。そのための大事な御言葉はローマ 12:10 です。自分、自分の教会、自分の教団よりも、他がまさっていると思わなければなりません。メシアニックの運動も色々あります。お互いに学び合い、尊敬し合う。これが本当の一致です。そうして本当に大リバイバルが日本に来ます。

中川健一師（ハーベスト・タイム・ミニストリーズ主幹）

大阪 / 東京・解説メッセージ

この集会で、日本の宣教の歴史に新しいページが開かれました。イスラエルとメシアニック運動は、一部のマニアだけが興味を持つべきテーマではなく、全てのクリスチャンにとって重要なテーマなのです。しかし、サタンの妨害もまた入りやすいので、注意しないと混乱が起こります。迷った時はキリスト論に戻って考え、イエス・キリストを見失わないようにして下さい。そして、様々な見解を、Amen（正しい意見）、As you like（好みの問題）、Anathema（危険な意見）という 3 つの A に区分して考えると良いでしょう。

クリスチャンとして重要な視点は、以下 A-E の 5 つです。

1. Anti-Semitism（反ユダヤ主義）キリスト教は、自らがイスラエルの地位を引き継いだとする「置換神学」を発展させ、ホロコーストなど多くの残虐行為を行いました。これを悔い改め、謝罪するスタンスが重要です。
2. Basis（土台）「ユダヤ人がユダヤ人のメシアを信じ、ユダヤ人として完成する」のがメシアニック運動。私たちはユダヤ人ビリーバーから、アブラハム契約という土台、そして「契約を守る神」を学ぶことができます。
3. Contextualization（文脈化）キリストによる救いでは一致できても、ユダヤ的な信仰表現で意見が一致しないのがメシアニック運動。それは、西欧的でない日本的な信仰表現を目指す私たちと同じ悩みです。
4. Duty（義務）異邦人は霊的なものをユダヤ人から受け取ったので、物質的な奉仕をする義務がある（ローマ 15:27）とパウロは教えます。しかし、福音を伝えることも必要です。伝道と支援は車の両輪なのです。
5. End Time（終末）メシアニック・ジューの存在は、今が終末時代であることを示します。ですから、再臨を待望する皆さんには、メシアニック運動に注目していただきたいのです。

「今の時のいろいろの苦しみは、将来私たちに啓示されようとしている栄光に比べれば、取るに足りない」（ローマ 8:18）とパウロは言っています。その栄光の時が近づいていることを、メシアニック・ジューの出現は示しています。

チャールズ・クリンゲンスミス師（LCJE 日本支部長）

大阪・導入メッセージ

一牧師の立場からお話しします。ローマ 11:13-15 を読みます。私は異邦人の使徒ではなく日本人のための牧師ですが、私も自分の務めを重んじています。皆さんも同じだと思います。私たちの日々の牧師や信徒としての働きは時間と空間を超越し、ユダヤ人が幾人かでも救われるために用いられています。この日本での牧会も、ユダヤ人の救いの準備となっているのです。しかし、この励ましを申した上で、特に 15 節を心しなければならないと思います。彼ら（ユダヤ人）の捨てられることが日本の和解となるということです。日本宣教はどんなにか麗しいことでしょう。しかし、日本の宣教の背後には「彼らの捨てられること」があるのです。この言葉を断じて忘れてはいけません。パウロの悲しみを自分自身の悲しみとしましょう。イスラエルの救いと異邦人の救いの関係はここから始まります。ユダヤ人のために絶え間ない痛みをやしなってください。役員会でこの話をとりあげてください。ユダヤ人宣教は全ての教会、あなたの教会のものです。福音はユダヤ人をはじめとする神の救いの力です。いっそうユダヤ人のために祈りましょう。そこには死者の中からのいのちという約束があるからです。

行澤一人師（シオンの喜び運営委員会委員長）

大阪・応答メッセージ

イスラエルの民であるシュラム先生が「イエスこそが私たちの誇りであり、光であり、救いである」と言われた叫び声を、諸国民のクリスチャンとして喜ばしく聞きました。私の応答メッセージは、私たちがメシアニック・ジューの愛する兄弟姉妹との共同相続人とさせていただいた喜びを、この先生方にお分かちすることです。アブラハムの子孫には相続権、地位が与えられています。でも、ヘブル書 9 章によれば、相続権を行使するためには、被相続人であるイエスの死亡証明書をもっていなければなりません。ですから、メシアニック•ジューの兄弟姉妹は、まさに、それをいただいてイスラエルの地だけでなく天の都の相続財産をも実際に受け継ぐ人たちです。イザヤ 42:6 から先生が話されたように、神はイエスをご自分の民の契約そのものとされました。だからイエスの死亡証明書を手にすることによってイスラエルは、はじめて、与えられた相続を実際に手にすることができます。それだけではなく、イエスは私たち諸国民にも光となってくださって、かつてはアブラハムの契約と何の関係もなく、来るべき御国の相続人ではなかった私たちにも、等しくその証明書を与えて下さいました。ハレルヤ！

田中時雄師（基督聖協団理事長）

東京・導入メッセージ

聖書学院では、イスラエルの回復、日本のリバイバル、再臨のために 3 年間祈らされました。それから東北地方の教会に赴任し、イスラエルとは無縁になったと思いましたが、不思議なことにイスラエル人の若者と出会い、福音を伝えることができました。その後、LCJE 日本支部設立にも関わることができました。私たちの教団の創設者だった中田重治師は、米国のムーディー聖書学院で学び、ユダヤ人伝道に関する教えを受けておられました。昭和 5 年に私たちの教団で起こったリバイバルは、再臨のビジョンに関係したものでしたが、その直後に中田師はイスラエルのために祈るように信徒に教えられたのです。それから 80 年近く、迫害や困難にもかかわらず、私たちは祈り続けてきました。さて、イスラエルについて学ぶ場合、ユダヤ人と異邦人の関係は重要です。ローマ 3 章 2 節でパウロは、ユダヤ人が神の言葉をゆだねられていると記しています。私たちが聖書を読めるのは彼らのおかげです。しかし、9 節にはユダヤ人が異邦人よりもまさっていないと書かれています。神様の救いのご計画の中で、ユダヤ人と異邦人は多少役割が違いますが、神の国の共同相続人であり、優劣は無いのです。

川端光生師（キリストの栄光教会牧師）

東京・応答メッセージ

シュラム先生の著書『隠された宝』を読み、私がクリスチャンになってからずっと苦しんできたことに、やっと少し光が見えてきたなと思わされました。私もこの日本の教育の中で、近代欧米の合理主義の教育を受けてきました。500 年前のルネサンスの時期に、思想的には、神中心から人間理性中心、思惟する自我を中心に世界・神を考えて説明していくようになり、それが近代合理主義の神学となってきました。その中にあって、私は、三位一体や、神の大権と人間の自由意志の問題等について説明をつけようとして悩みました。しかし聖書をもう一度読み直すと、イエスさまもパウロもペテロも、今言った問題を全然問題にしていません。それを彼らはそのままそっくり受け入れているだけだと思います。聖書は、ご存知の通り、ユダヤ人が、ユダヤ人の文化の中で、ユダヤ人の歴史を通して、ユダヤ人の思考方式でわかるように書いたものです。それをなぜ、欧米の思考方式だけで理解しなければいけないのでしょうか。イスラエルの歴史の中で、イスラエル人が、イスラエルの言語で、イスラエルの思考方式で書いた聖書をそのまま読んでいくということが大切だ、ということに気づかされたのです。

インターナショナルアワー
アジア諸国からのゲストのメッセージ

東京に参加されたアジア諸国からのゲストの皆さん

アリエル・ブルーメンソール師
（リバイブ・イスラエル東アジア担当在日本宣教師）

パウロは「奥義」について語りました。ローマ 11:25 では異邦人宣教の完成とユダヤ人の救いの関係を奥義だと言い、エペソ 3:6 では異邦人とユダヤ人が共同の相続人であることが奥義だと言っています。パウロは一つの奥義を二つの面から書きました。そこでイザヤ 45:1-3 を学んでみましょう。異邦人であるクロス王が、油注がれています。これは異邦人教会の召しを象徴します。クロス王はバビロンを占領し、ユダヤ人を解放しました。同様に、現代のクリスチャンは、ユダヤ人の帰還を促進しています。クロス王に対する「わたしは彼の右手を握り、彼の前に諸国を下らせ、王たちの腰の帯を解き、……」という約束は、教会が現代社会に勝利する約束です。次には「秘められている財宝、隠された宝を与える」と書かれています。それは、イスラエルの神を知ることです。もうすぐ、教会はそれを知るでしょう。神様がイスラエルに対する約束を果たされて、異邦人がエルサレムに来ることは、聖書の基本原則であり「奥義」ではありません。イスラエル回復が、異邦人クリスチャンの祈りにかかっていることが「奥義」です。ユダヤ人と異邦人クリスチャンは、一つの体になるのです。今は、その奥義が明らかになる時代です。

キム・ヘリ勧士（韓国：KIBI 代表ソン長老夫人）

KIBI とは、Korea Israel Bible Institute の意味で、オンヌリ教会が運営するイスラエル関連の超教派ミニストリーです。エベネゼル緊急基金の働きを通じてユダヤ人の帰還を助けています。また、極東の旧ソ連地区でユダヤ人を助ける活動も支援しています。そして、イスラエルのメシアニック・ジューも支援しています。現在は、アシェル•イントレーター師（リバイブ•イスラエル）、ヨセフ・シュラム師（ネティブヤ）、ヤコブ・ダムカニ師(救いのトランペット）などを支援しています。小グループでの教育活動（SGS）では、「なぜイスラエルを祝福しなければならないのか」という、6 週間で学べるコースを作り、その教材は日本語にも翻訳されました（校正にシオンとの架け橋も協力）。その他、世界的な祈りのネットワーク（GPNK）、出版活動などを行っています。

クリサダ・チュサクンタナチャイ師、ノイ夫人、ヌアン姉
（タイ：New Wineskin Ministry）

タイのクリスチャンは人口の 0.2% です。2005-2006 年、ブルーメンソール師らがタイに来て、イスラエルを祝福すべきだと教えて下さいました。貧しいタイ人が、どうやってイスラエルを祝福すればいいかと思っていたら、イスラエルに約 3 万人のタイ人農業労働者がいることを知りました。それは「外国人が農夫となる」（イザヤ 61:5）という預言の成就です。イスラエルで農業労働者のビザが出るのはタイ人だけです。彼らに伝道をすれば、ユダヤ人に福音を伝えられると気付きました。そして、クリサダ師という指導者が与えられました。師は「新しい革袋」というセミナーでイスラエルに目が開かれたのです。そして、トム•ヘス師のイスラエルでの集会に参加し、またトム・ヘス師の集会をタイでも開催することができました。

ギルバート・カルディゲス師（シンガポール：One New Man Asia 代表）

妻のアルメナ、私の教会の信徒のアーウィンさん、ピーター・ツカヒラ師のシンガポール窓口を務めるスコッツさんと一緒に来ました。シンガポールには、エベネゼル緊急基金、CFI など様々な団体の支部があります。One New Man Asia はアジアの教会にヘブライ的ルーツを回復する働きです。ユダヤ人になろうとする人が出たりすると、運動全体の評判を下げるので、小集会による教育活動に力を入れています。定期的な超教派集会や、「エルサレムのための国際祈祷日」も行っています。私たちはフィリピン、香港、中国、マレーシア、インドネシアでも集会をしました。現在、若い人々にビジョンを伝える働きや、イスラエルへのメシアニック交流ツアーの企画をしています。また、東南アジアに旅行に来る若いイスラエル人への伝道活動も行っています。

ホン・スンウク師（韓国：ブーピョン・スーボー・メソジスト教会牧師）

シュラム先生を招いていろいろな集会を行ってきました。マタイ 10:40 には「あなたがたを受け入れる者は、わたしを受け入れるのです」と書かれているように、メシアニック•ジューを受け入れることは、クリスチャンにとって重要です。第二次大戦の時、ユダヤ人殲滅を目指したヒットラーと同盟した日本は、過ちを犯しました。今、イスラム教がユダヤ人殲滅を目指しているのに、それを支持する人々がいます。オバマ米大統領もそうです。残念なことに、韓国の大教会の中にも未だに置換神学に騙されている教会があります。彼らを目覚めさせる必要があります。メシアニック•ジューの人々の力を貸していただいて、この戦いを共に闘っていきましょう。

※スンウク師夫妻は大阪に参加

新約聖書の核心ーローマ書 9 章から 11 章

ピーター・ツカヒラ師（カルメル・アセンブリー指導者）

私たちは、イスラエルの復活の証人となるよう選ばれた世代です。2000 年間にわたって姿を消していた神の民が帰って来ています。それだけではなく、私たちは、メシアニックの残りの者が復活していることの証人です。これは、霊的、神学的に非常に重要な出来事であり、これを聖書的な観点から理解することが、私たちにとって非常に重要なことです。私たちは、このような出来事を自分の目で見る最初の異邦人クリスチャンの世代です。このような聖霊による出来事は、使徒行伝の時代以来なかったことなのです。私たちが毎日読んでいる聖書に、この出来事が全く新しい観点を提供してくれるのです。

新約聖書の核心に関わる話をしたいと思います。ローマ人への手紙は、パウロが福音を最も組織的にわかりやすく書いたものと考えられています。この書は、キリスト教神学の中で最も重要な位置を占めてきました。信仰義認という、宗教改革の偉大な真理もこの書から出て来ています。多くのクリスチャンがこの書を愛しています。ところが、ローマ書の 8 章の終わりに来ると、多くのクリスチャンに、あることが起こります。ここで瞬きをする、目を閉じるのです。8 章の終わりでちょっと目を閉じ、目を開けると、いつの間にか 12 章 1 節に来ているのです。私はこれを「瞬きの神学」と呼んでいます。

■イスラエルの無かった時代に確立した置換神学

8 章までの素晴らしい神学の後、パウロは、イスラエル、ユダヤ人について書き始めます。さらに、11 章に行くと、キリストの体の中にいるユダヤ人や、このユダヤ人と異邦人との正しい関係について語っています。過去の偉大なキリスト教の思想家や神学者は、ローマ書 9 章に来ると、「もうユダヤ人の国というものは存在しないが、使徒パウロはここでいったい何のことを書いているのだろう」といぶかりました。そして、「これは過去の歴史の話だから私たちは無視して構わない」とか「私たちは霊的イスラエルなのではないか」などと考えたのです。これが「置換神学」の一つの根源になっています。ルターやカルビンの時代であれば、ユダヤ人の国イスラエルも、イェシュアをメシアと信じるユダヤ人のメシアニック運動も存在しなかったので、このような誤解もやむを得なかったかもしれません。しかし、現在はイスラエルの国が回復し、1960 年代からは明白な形でメシアニック・ジューがこの世界に存在しています。私たちは、新約聖書の基本的な神学を考え直さなければならないところに来ています。

私は、「ローマ書 9、10、11 章は後からの挿入である」という注釈が付いた聖書を見たことがあります。「なぜかよく分からないが、パウロはここに挿入を加えた」という解釈によるものです。しかし、今日私たちは、この箇所が「挿入」ではなくて、核心的な箇所であると気づいています。実は、そもそもパウロがローマ人に手紙を書いたのは、この 3 つの章を書くためだったのだろうとも考えられるのです。パウロが手紙を書くときには、ほとんどいつも、教会の中にある何かの問題を解決するために書いています。ローマでの問題は、教会指導者の中でユダヤ人と異邦人の分裂が起こっていたことです。異邦人たちは、「あなたがたユダヤ人は確かに私たちに最初に福音を伝えてくれたかもしれないが、あなたがたの民族は主を拒絶してしまったではないか」と言っていました。使徒パウロはローマ教会の中のユダヤ人と異邦人の間で論争を聞き、その解決を助けるためにローマの教会に手紙を送ったのです。

ローマ教会はパウロが設立した教会ではなく、ローマの弟子たちはパウロが育てた弟子ではなかったので、パウロは最初に、自分の伝えている福音のメッセージを 1 章から 8 章で、順序立てて語りました。パウロは本当に主に油注がれた使徒であるとローマの読者が確信できるように自分の神学を語って、ここから本題に入りましょうというのが 9 章で、3 つの章をかけてローマ教会の問題について語っているのです。

■パウロの「預言」が成就する時代

私たちは、2000 年間で初めての、「瞬き」をしなくてよい世代です。ローマ書 8 章の後、パウロが 9 章からユダヤ人の国イスラエルについて書いていますが、これは私たちにとって問題とはなりません。さらにその後でパウロが、救われ、生まれ変わってメシアを愛するユダヤ人について書いていますが、それも私たちには問題となりません。これは、神学的観点から言うと、私たちはこの手紙の全体を取り戻した最初の世代のクリスチャンだということです。

11 章の 1、2 節を読んでください。この段階でパウロは既に、自分の民族がイェシュアをメシアと受け入れることを拒否していることを知っていました。しかしパウロは、神はそれでもユダヤ人を捨てておられないということを、はっきりと書いています。キリスト教会は、本当に長い間、この聖書箇所について誤解をしてきました。ユダヤ人がイエスを拒否したので、神はユダヤ人を拒否したのだと、カトリックもプロテスタントも、何世紀にもわたって堂々と教えてきたのです。しかし、霊感を受けたパウロは、これと正反対のことを教えています。

さらに、11、12 節を読んでください。パウロは 2000 年前に、ここで、メシアニックの残りの者が再び興されることを預言しているのです。ユダヤ人が福音を受け入れなかったことが、異邦人にとっての好機となりました。神はユダヤ人の失敗を、直接異邦人に福音を与えるのに用いられました。ここで、パウロは問います。もしこれが祝福であったとするならば、ユ

東京会場の様子

ダヤ人がメシアを受け入れたらそれ以上のどんなに大きな祝福があるだろうかと。今、ユダヤ人の国イスラエルがよみがえり、メシアニックの残りの者たちが興されてきています。この時に初めよりももっと大きな祝福があると、使徒パウロは言っているのです。

■日本民族が「よみがえる」

15 節を読んでください。これは、イスラエルにとっての、死者の中からの復活です。もちろんそれも含まれていますが、文脈を見ると、それよりももっと大きな復活が起こるということを、パウロはここで説いているのです。つまり、諸国民も死者の中からいのちに復活するのだと。メシアニックの残りの者が興されているということは、皆さんの民族にとって、預言的なしるしです。日本民族が死者の中からいのちによみがえるその時が来ているということなのです。これは、新約の使徒によって 2000 年前に預言されていた、まさにその出来事なのです。

さらに、パウロは、二つのオリーブという美しいシンボルについて述べています。一つのオリーブの木は野生のオリーブの木で、異邦人のオリーブの木です。もう一つは栽培されたオリーブの木で、イスラエルのオリーブの木です。パウロはこのシンボルを通じて強力な教えを語っています。11 章の 17、18 節を読んでください。パウロは異邦人のリーダーたちに向かって語っています。ここで「あなた」とは異邦人で、「彼ら」とはユダヤ人のことです。何世紀もの間、私たち異邦人のクリスチャンは、「ユダヤ人は救われて私たちの方に接がれるべきだ」と考えてきました。ところが、聖書がはっきりと語っているのは、私たちが救われると私たちが彼らの方に接がれる、ということなのです。

■契約を守られる神

19-22 節を読んでください。もしあなたがこれを正しく理解するなら、それに対する正しい反応は主を恐れることであると、パウロは言っています。パウロはこれを 2000 年前に預言していますが、今日、私たちは歴史を振り返り、「折られた枝」に何が起こったかということをよく知っています。彼らは私たちに対する教訓となりました。しかし、この後に良い知らせがあります。23、24 節を読んでください。ここでパウロは、2000 年前に、現代のメシアニック運動について預言をしているのです。このことがまさに真実であることを、皆さんは、今日、メシアニックの兄弟が存在することによって知ることができるのです。これは、神が真実であることを歴史的に証明する証拠なのです。天地は過ぎ去っても神の言葉は決して過ぎ去ることがないことの証拠です。そして、私たちが仕えている神は契約を守られる神であられるということの証拠です。

最後に 25、26 節を読んでください。この「完成」とは、日本の完成のことです。イスラエル人の一部がかたくなになったのは日本の完成がなる時までである、ということです。皆さんに、シオンからの預言的な言葉を申し上げます。それは、「どうぞ、急いでください！」です。私たちは日本の完成を待っています。「こうして」、イスラエルはみな救われるからです。イスラエルの国家的リバイバルは既に聖書に書かれており、私たちはそれに向かって進んでいます。しかし、それは、皆さんなしでは、決して完成することがないのです。

※このメッセージは大阪の集会 1 のもので、プログラムの関係で東京では語られませんでした。

■皆様への感謝

カルメル山より心からのご挨拶を申し上げます。大阪と東京でのアジア・メシアニック・フォーラム 2009 に注がれた、皆様のお働きとご献身とに感謝を申し上げます。諸集会の結果は、言葉では表現できないほどの、非常に意義深いものであったと感じました。日本における新しい神の聖霊の動きの始まりを－物事の水面下で起きている大変化の「轟音」を－私は感じました。イスラエルと、シオンからのメッセージは、来る日本のリバイバルの重要な部分になります。私はとても励まされ、神が来年も私を日本に遣わしてくださることを期待しております。

東京会場では、私の韓国での奉仕のためにお祈りいただきありがとうございました。10 月 23 日に行われたソウルの「大祈祷集会」には約 7 万人が参加し、会場となったワールドカップ・スタジアムは満員となりました。集会のテーマは「世界平和と国家危機克服のための祈り」で、そこで私がささげたユダヤ人とアラブ人のための祈りには熱心な応答があり、集会後には、たくさんの肯定的なコメントを受けたのです。

あなたの手にあるものは何か

ヨセフ・シュラム師（ネティブヤ指導者）

今日は、モーセについてお話ししたいと思います。ヤコブとラケルの息子であるヨセフが、神からの幻を見ました。この事によって、彼は兄弟たちから嫌われ、奴隷としてエジプトに売られました。しかしこの悲惨な事件が後に良い事に変えられ、イスラエル人がカナンの地での激しい飢饉から逃れることが出来たのです。しかしこの素晴らしい出来事から200年後に、彼らは奴隷とされてしまったのです。この状態がさらに200年間続き、彼らは主に叫び声をあげました。

そこで神は、モーセを小さなかごに入れられてナイル川に流され、パロの娘に救われるように仕向けました。彼はパロの家で成長し、自分の民の苦しみを見て下って行って彼らを救おうとします。ところがイスラエルの民は、「誰があなたを私たちの指導者にしたのか」と彼を非難したのです。

そこでモーセはイスラエルの民を救うことをあきらめ、シナイ半島の荒野に逃げて行きました。そこで王子だったモーセは、羊飼いになりました。そして、ミデアン人に雇われた羊飼いを40年間続けたのです。教育も能力もある彼のような人物がこのような仕事を続けていたという事実が、彼が深く落ち込み希望を失っていたことを示しています。

■神に召されるモーセ

そして、ある日モーセは燃えるしばを見ました。そこで神は、モーセにエジプトの王宮に行ってイスラエルの民を助けるよう命じられたのです。モーセは、「私はあなたに従いたいけれど、話すのが上手ではありません」と答え、同じ問答が繰り返されます。

4章のはじめでモーセは、あなたが私を遣わしたと言っても、彼らは信じないでしょうと言います。私があなたに会って話したことも彼らは信じず、あなたは幻を見ただけだと言われると主張します。

合理的に話をしてもモーセが受け入れないと考えた神は、「あなたの手にあるものは何か」と、問いかけます。モーセは自分の手を見て、「杖があります」と答えます。杖は、中近東の羊飼いが最もよく使う道具です。彼は、その杖を長い間使っていたと思われます。疲れた時はもたれかかり、蛇を打ち殺し、羊を導き、疲れた時には歩く助けにしていました。この杖がどのようなものか、よく知っていたのです。その答えを聞いた神は、「それを地に投げなさい」と命じました。

■持ち物を神にゆだねる

もし皆さんが神に、「あなたの手にあるものは何か」と聞かれたら、「大したものは持っていません」と答える人が多いでしょう。お金はないし、教育もないし、日本の救いのような大きな事を実行するような道具は持っていないと答えるのではないでしょうか。しかし神は、あなたの手にあるものを地に投げなさいと命じるでしょう。その時皆さんは、私の持ち物はこれだけだとか、投げたら壊れてしまうと言い訳をしないでしょうか。

私たちの手の中にあるものが本当は何であるかは、私たちが手を開き、神にゆだねるまで知ることができません。神がそれを用いた時に、それが何であったかを、私たちは知るのです。しかし、私たちは持っている物を放そうとはしません。放すことを恐れる理由はいくつかあります。

最初の理由は、失うことへの恐れです。神にわたしたら、自分のものではなくなってしまいます。お金を神にわたしてしまったら生活できないとか、地位を失ったら、家族や身の回りの人から重んじられなくなると考えます。

アメリカのワシントンで成功していて、アメリカやイスラエルのメシアニック・ジューの間でも、尊敬を集めている二人の弁護士がいました。ところが、彼らはその職業や地位を捨ててウクライナに行き、ユダヤ人への伝道を始めたのです。

私は彼らのワシントンとウクライナの両方の家を、訪問したことがあります。ウクライナの家のリビングルームは、ワシントンの家のガレージより粗末でした。彼らの手の中には、法律家としての資格がありました。ところが彼らはその手の中にあるものを地に投げて、「神よ、私たちを用いてください」と呼びかけたのです。ウクライナで暮らす彼らは、本当に幸せそうで、そのコングリゲーションには、すでに数百人が集っていました。

これは、個人にも教会や団体にも言えることですが、財産であれ、地位や能力であれ、神から与えられたものを私たちが自分の手につかんでいる限り、神はそれを用いることはできません。もし皆さんが日本のリバイバルを望んでおられるなら、終りの時の再臨やイスラエルの救いの重要な役目を果たそうと思っておられるなら、手を開いて、神があなたに与えたものを解き放ってください。

■悪魔のささやき

手にあるものを放さないもう一つの理由は、悪魔がこのようなものは神に喜ばれないとささやくことです。「このような古い杖で、傷だらけで汚れています」と。体の欠点や教養、地位、財産などに関するあらゆる事実をささやくのですが、これらの事実が悪魔の口を通るとき、ウソになるのです。

神がただの杖で何ができたかを見てください。モーセが投げた杖は、地に触れたとたんに蛇になったのです。モーセは、今まで何度もこの杖を落としたことはあるが、一度もこんな事はなかったと驚いたでしょう。ユダヤに、「神の意思なら、ほうきが銃になる」ということわざがあります。モーセは杖のことは良く知っていましたが、杖を使って神に何が出来るかは知りませんでした。

イスラエルでは、最もできそうにない人が伝道の成果をあげています。障害を持ったナチスのメンバーの子孫であるドイツ人の若者が、エルサレム郊外の兵士たちがヒッチハイクする場所で伝道して、成功しています。

神が杖を蛇に出来るなら、当然皆さんを、日本のリバイバルのための鋭い伝道の道具にすることもできます。神はあなたが持っているどのようなものでも、あなた自身をも使うことができます。しかし、この時にあなたは自分を放さなければなりません。勇気を持ってください。神はあなたとともにおられ、あなたが行おうとする事をご存知です。

あなたは、自分自身を救うことは出来ません。テレビが故障したら、あなたは専門家に電話するでしょう。もし、あなた自身が壊れたら誰に電話したら良いでしょうか。自分自身で修理することはできません。手を開いて自分自身を放し、イェシュアの手の中に落ちれば、イェシュアはどのようにすれば良いかを知っています。

■合理的ではない神の命令

皆さんは、こんなことは合理的ではないと言うかも知れません。神はモーセにどのように命じたでしょうか。動きまわっている蛇の尾を捕まえるように命じたのです。もし私がこのように命じられたら、神に「あなたは蛇というものを知らないのですか」と聞いたでしょう。蛇の尾をつかむのは愚かな事です。頭を返してかみついてくるので、慣れている人は頭に近いところをつかみます。では、神はなぜ、モーセに蛇の尾をつかむように命じたのでしょうか。それは、モーセがたとえ合理的でなくても、神の命令に従うかどうかをテストするためでした。私たちが神に従えない大きな障害は、私たちが神に信頼を置くのではなく自分の知恵や合理性によって生きようとすることです。神が私たちに命じることは、そのほとんどが合理的ではありません。

神はユダヤ人に豚肉を食べてはいけないと命じ、豚肉を食べない方が健康に良いと考える人がいます。私は世界中を旅しており、北欧にもよく行くのですが、この地域の豚肉を食べる人々は体も大きく健康そうで重労働もこなしているのですが、ユダヤ人は体も小さく、特に宗教的なユダヤ人は青白く、北欧の人とは比べ物になりません。これでも、豚肉を食べるのは健康に良くないと言えるでしょうか。ユダヤ人はありとあらゆる病気にかかっており、糖尿病の人も多いのです。従って、この神の命令は合理的ではありません。また、異言を語ることは、合理的でしょうか。

ここでモーセは、杖を放した瞬間から自分に何かが起こっていることに気づいたのです。そこで彼が蛇の尾をつかむと、それは木の棒に戻ったのです。

■神に用いられるために

では、皆さんはその手に何を持っているでしょうか。全員が、神が用いることが出来る何かを持っています。私たちは集団として、神の言葉を持っています。そして、皆さんの手の中にある聖書、信仰、そして自分を捨てようとする意志以上に、神が用いることのできる強力な道具はありません。イスラエルに与えられた最高の宝が、聖書なのです。

旧約聖書も新約聖書も、神がイスラエルに与えたものです。そして、皆さんがこの書物をその手に持つ時、あなたがたはアブラハム、ダビデ、イエス、そして聖霊やイスラエルの神とつながるのです。皆さんはイスラエルの過去に、そして現在につながっており、今日みなさんの前にイスラエルから来た教師たちが立っていることが、この書物によって皆さんがイスラエルとつながっていることの証なのです。

教会も手をひらいて手の中のものを神に用いてもらう方法を、学ばなければなりません。これは日本や韓国など東アジアの人々の性質ですが、自分の教会が特別だと考えて持っている物を独占しようとする傾向が強いようです。教会が門戸と心を開いて、キリストの体が一つしかなく、キリストの体に加わるのに教義はほとんど関係が無いことに気づくまでは、この状態から抜け出すことはできないでしょう。キリストの体に加われるのは、キリストの血によるものだからです。

私は、読み書きもできない偉大なクリスチャンを知っています。アラブ世界では、今日も文字通りイエス・キリストのために自分の命を犠牲にしているクリスチャンたちがいますが、彼らの多くは聖書を一度も読んだことがありません。複雑な終末論の解釈など知らないし、問題にもしていません。しかし彼らは実際に、イエス・キリストのゆえに神に命をささげているのです。私たちはリーダーとして、人々をその読んでいる本や学んだ教師や学校で人を判断して良いでしょうか。

聖書は、イスラエルを通して与えられた霊の剣です。この本は、ユダヤ人から与えられた救いの希望です。この本は、エルサレムから来た復活の証です。この本は、イスラエル、そして全世界の贖いのロードマップです。そして、神の次の重要な約束であるキリストの再臨と私たちをつないでいます。

さあ、モーセから学びましょう。皆さんの手の中にあるものを見てください。それを神が用いることができないとは、絶対に言わないでください。皆さんの人生を見てください。そして、神が私を用いることができないとは、絶対に言わないでください。あなたの手を、心を、ポケットを開いて下さい。そこにあるもので、神に奇跡を起こしてもらいましょう。神にはその事が出来るのです。

もしあなたがどもりでも、あなたの手の杖があったならそれで十分です。このどもりと杖を使って、エジプトにいたユダヤ人を、奴隷から自由へ、暗黒から光へと導きだした神は、あなたを用いて同じことが出来るのです。

■皆様への感謝

このフォーラムで最も心沸き立ったことは、イスラエルとイェシュアのユダヤ人弟子達を中心に、多くの異なる教会各派の指導者達が集まり、ともに耳を傾け、語り、賛美をし、交わりのときを持ったということです。神学的立場の違いをこえて、このように異なる教派のクリスチャン指導者たちをひとつにまとめ引き寄せる聖書的主題は、イスラエル以外にありません。

フォーラムによって築かれたこの動きの勢いと流れが、神の栄光のために用いられ、神の御国のために、ユダヤ人の救いとイスラエルの祝福のために、更に教会の団結と協力体制を促し、共に働いていけるものとなるよう、全ての皆さんにお祈りをお願いします。

契約によるパートナーシップ

エイタン・シシコフ師（恵みの天幕指導者）

■はじめに

私は今、大きな変化の現場に立ち会っているような気がしてなりません。皆様も霊的な革命が起きていると感じておられるのではないでしょうか。皆様はそれをもたらしている先駆者です。私たちの関係は、危機の時代にあって互いが一つとなるために、神が立てて下さった信頼の関係だと信じます。日本の皆様が、何世代にもわたって命をかけてイスラエルのためにして下さった祈り、献げ物や尊い犠牲に対して、イスラエルのメシアニック・ジューの共同体を代表して心から感謝申し上げます。

■神の共同の相続人

パウロは、エペソ書 3:4 - 6 で「キリスト・イエスにあって共に神の国をつぐ者となり、共に一つのからだとなり、共に約束にあずかる者となる」と、語っています。この聖句を通して、自己認識を新たにする必要があります。つまり、私たちは神の祝福の共同の相続人なのです。しかし、幾つかのジレンマに直面します。それは、異邦人がユダヤ人を見る時に、ユダヤ人を除外するか、ユダヤ人を崇め過ぎるかのどちらかの極端に走りやすいという問題です。多くの教会は置換神学という教えに支配され、イスラエルは神の役割と祝福を失い教会がそれを継承していると考えています。もう一方は、律法は異邦人クリスチャンにも適用され、それを行わなければならないという見方です。使徒行伝 15 章を読めば、その教えが間違いであることは一目瞭然です。一方、ユダヤ人にも問題があります。メシアニック・ジューが異邦人の教会を見た時、それに同化して自らのユダヤ性を見失うか、クリスチャンによって汚れるという恐れによって、彼らから分離するという間違いを起こしているのです。しかし、パラドックスという言葉がこの問題への答えとなります。パラドックスとは表面的には矛盾しながら、両者ともそこに存在しないと困るような関係です。西洋的な考え方は A か B かの二者択一で、A と B の両方を認めることはありません。しかし、聖書は西洋の書物ではなく東洋のものです。ガラテヤ書に「キリストにあっては、もはや異邦人もユダヤ人もない。男も女もない」とありますが、男と女、ユダヤ人と異邦人の区別はあるのです。ローマ書 11:29 には「神の賜物と召しとは、変えられることがない」と述べられ、ユダヤ人と異邦人とは並存しているのです。これがパラドックスです。神の共同の相続人として、両者は共に必要なのです。

■神の選びの計画

神は全人類を救う計画を立てられました。しかし、それを実行できない大きな問題があります。それがジェラシーです。皆様がもし異邦人として、ユダヤ人の私が神から受けているほどに愛を与えられていないと考えるなら、それは皆様に問題があります。なぜなら「神はひとり子を賜うほどに、世を愛された」からです。これが神の計画です。神は一つの家族を選び、一つの民族を通して全人類を救う計画を立てられたのです。アブラハムは、息子イサクを神の前に献げました。そして神は「あなたの子孫を通して全人類を祝福する」と約束されたのです。さて、マタイ福音書の劈頭には「アブラハムの子であるダビデの子、イエス・キリストの系図」と記されています。これが神の選びの計画です。

■神の宮を建てた「友情契約」

列王紀上 5:1 - 7 を見てみましょう。ソロモンはヒラムに言います。「父ダビデは周囲にあった敵との戦いのゆえに、彼の神、主の名のために宮を建てられませんでした。……主の名のために宮を建てようと思います」と。これがエルサレムに建てられる主の御名を崇めるための神殿です。7 節でヒラムは「主はあがむべきかな。主はこのおびただしい民を治める賢い子をダビデに賜った」と喜んだのです。この決断の背後にあるダイナミックな力とは何でしょうか。それは「友情契約」です。ヒラムはダビデの王宮を建てる時、様々な助けを提供し、そしてユダヤ人の王と異邦人の王とが協力して主の神殿を建てたのです。そして今日の私のメッセージの中心はこれです。神が私たちを招いて、共に生ける神の宮を建設することを命じておられるのです。私たちはソロモンから出た子孫としてここに立ち、皆様は象徴的に異邦人の王であるヒラムの家族としてここに立っておられるのです。神殿が献堂された時「主の栄光が主の宮に満ちた」（列王紀上 8 : 11）のです。ソロモンは祈りの中で「この宮はユダヤ人たちだけのものではなく、諸国民がここに来てあなたに願う時、主よ、どうぞお応え下さい」と言っています。この友情関係こそ私たちのキーワードであり、これによって神は、イスラエルにご自身の栄光を回復しようとしておられるのです。ヒラムとソロモンの友情から、リバイバルの鍵を見つけることが出来るのです。

■友情契約のパートナーの役割

イザヤ書 60 章の初めに、異邦人の諸国がイスラエルの光に招かれると預言されています。この光とは、メシアニック・ジューのことです。5 節と 9 節で、神は異邦人の富、国々の富をイスラエルに送ると書かれています。ヒラム王が、材料と職人をソロモンのために送ったのと同じことが起こるので

す。イスラエルでメシアニック・コングリゲーションが土地を持ち建物を建てる時、多くの異邦人クリスチャンが献金して下さっています。そして9節で、ユダヤ人の約束の地への帰還の預言が記され、クリスチャンの様々な働きは、約束の地に帰るための手助けとなっているのです。イザヤ書62:6－7では「城壁の上に見張人をおいて、昼も夜もたえず、もだすことのないようにしよう」とあります。明らかに、執り成しの祈り手が起されることの預言です。友情契約のパートナーの一番大切な役割は、執り成しの祈りなのです。

■リバイバルを実現するための祭司の務め

ビリーバーは皆、生ける神の前で「祭司」です。神が開かれた門を通って至聖所の中に入り、恵みの座の前で執り成しの祈りをする祭司です。ヨエル書2:17に「主に仕える祭司たちは、廊と祭壇との間で泣いて言え『主よ、あなたの民をゆるし』」とあります。この「あなたの民」とはイスラエルのことです。どうかイスラエルを憐れみ、その救いのために祈って下さい。それは「涙をもって種まく者は、喜びの声をもって刈り取る」（詩篇126：5）とあるからです。そして「主は自分の地のために、ねたみを起し、その民をあわれまれた」（ヨエル2:18）と語り、更に最初の雨と最後の雨を降らせ、そこにすばらしい収穫をもたらすと続けています。今、イスラエルと諸国においてリバイバルが求められています。リバイバルとは、神ご自身が自分の民の中にあって臨在を明確に顕わされることなのです。

■油注ぎ

列王紀上5:11で、ソロモンはヒラムに感謝して小麦と上質のオリブ油を毎年与えました。小麦とは畑からの収穫物であり、オリブ油は、油注ぎをする時に用いるものです。私が韓国に行った時、一人の婦人から「私のために祈ってほしい」と言われ、イスラエルから持参したオイルをもって彼女に油注ぎをしました。その瞬間、そこに主ご自身の御霊がおられることを実感したのです。今日、神が導こうとしておられる秘密がここにあります。皆様が平安をもった異邦人ビリーバーとしてイスラエルを愛し、私も平安をもったメシアニック・ジューとして異邦人を愛するという関係の中に油注ぎが下るのです。油はオリブの樹から採ったオリブを砕いて作られるのです。パウロは、栽培種のオリブの樹の枝が折られて野生種のオリブの枝が接木され、更に、栽培種の枝が再度接木されてオリブの油が豊かに提供されると教えています。私たちが主にあるパートナーシップを組む時、この油注ぎの秘密が現実となるのです。

■結び

ルツ記の物語は、私たちの友情関係を象徴します。それは、メシアを再び天から迎える備えです。ルツはナオミに心をつなげた人ですが、それはホロコーストの後で、荒れすさんでいるユダヤ人と共に立つ異邦人ビリーバーを象徴します。ボアズは収穫の主であるイェシュアの型とみることも出来ますが、彼をメシアニック・ジュー、ルツを異邦人ビリーバーと考えることもできます。イスラエルと諸国の霊的収穫を、私たちが主にあって待ち望む時それは可能になるのです。さて、私たちはイェシュアが地上に帰って来られ、この地で王として支配して下さるためのパートナーシップを持っています。イェシュアは、「主の御名によってきたる者に、祝福あれ」と、ユダヤ人たちが言う時までは、「わたしに会うことはないであろう」と言われました。だから声を上げ、主の御名を称えようではありませんか。「バルーフ・ハバー・ベシェム・アドナイ、ハレルヤ！」

シシコフ師とシュラム師による
アロンの祝祷

■皆様への感謝

歴史的な聖会に参加できましたことは、私にとって大変な名誉でした。福音はヨーロッパ伝道の糸口となったパウロの「マケドニアへの召命」から始まって西へと進み、ヨーロッパ大陸を横断しアメリカ大陸に達しました。メシアの福音は、エルサレムへ戻る途中で今アジア大陸に押し寄せ、数百万人もの弟子を起こしています。私がイスラエルの贖いと、神の御霊が諸国を導いて下さるよう皆様と共に祈った時、神の臨在が会場を満たしたことを今でも忘れることが出来ません。

イスラエルの贖いに対する異邦人の重要な召命についての核心は、イザヤ書60章の聖句が見事に語っています。日本と近隣諸国の兄弟姉妹によって示された、敬意、学ぶ意欲、寛大な心に私は心から謙ります。そして、フォーラムの最後の夜、私たちは相互の尊敬と愛情、互いを支援する必要性を認め合いながら、聖会全体を締めくくる劇的な瞬間を迎えたのです。一人の牧師先生は涙を流し、教会による長年の組織的な反ユダヤ主義に対する赦しを請い願われました。何という感動でしょうか。

この様な聖会を開催して下さった、シオンとの架け橋、聖書研究会、LCJE、シオンの喜び、多くの教会、教会員の皆様に深く感謝申し上げます。大阪と東京で味わった霊の津波の勢いが、神の国を進展させ続けますように。アジア大陸や聖地イスラエルが、破壊ではなく主の栄光で満たされますように。

「私たちのイスラエルからの負債」のご案内

日本では、クリスチャンの多くは教会が霊的なイスラエルであると考える置換神学の影響下にあり、イスラエルの重要性に目が開かれていません。シオンとの架け橋は、このような状況に対応するため、クリスチャンとしてイスラエルの重要性を理解する助けとなる小冊子の必要性を感じていました。そして、このたび、デレック・プリンス師の「私たちのイスラエルからの負債」という小冊子を、デレック・プリンス・ミニストリーズの承諾を得て、発行することができました。

デレック・プリンス師は、ご存じのとおり20世紀に活躍した世界的に有名な説教者で、晩年は一年の半分をエルサレムのメシアニック・ジューと共に過ごしました。そして、指導者の養成やコングリゲーションでの教えにあたり、イスラエルのメシアニック運動の発展に大きく貢献しました。ヨセフ・シュラム師やエイタン・シシコフ師も師と親交があり、ピーター・ツカヒラ師の『神の津波』は、師にささげられています。

この小冊子は、今現実的に中東にあるイスラエルが聖書のイスラエルであり、異邦人クリスチャンには彼らに対する責任があることを簡潔に説明していますので、まだイスラエルに目を開かれていない人や関心を持ち始めた人々に、お読みいただきたいと考えています。

このような目的で利用いただけるのであれば、この小冊子を必要なだけ無償で提供させていただきますので、ご希望の方は送付先と必要な部数を、シオンとの架け橋事務局までご連絡ください。

ヨセフ・シュラム師『隠された宝』販売のご案内

ヨセフ・シュラム師の新しい著書『隠された宝－イエスと使徒たちが用いたユダヤ的聖書解釈法』（1470円）が、イーグレープから出版されました。イエスや使徒たちのメッセージの背景となっているユダヤ的解釈法は、新約聖書の真意を読み解くための重要な鍵を与えてくれます。ご注文は、シオンとの架け橋出版部（下記）か全国のキリスト教関連書店、イーグレープ（www.e-grape.co.jp）まで。

アジア・メシアニック・フォーラム 2009 DVD 販売のご案内

このフォーラムの主なセッションを収録したDVDを販売します。大阪が2枚で2,000円、東京も2枚で2,000円、3師のミニストリー紹介が1枚で1,000円、以上5枚セットは4,000円です。大阪と東京で異なる部分もあるため、できれば5枚セットでご購入いただくことをお勧めします。カセットテープも販売します。お問い合わせやご注文は、シオンとの架け橋出版部（下記）まで。

シオンとの架け橋出版部

〒658-0052 神戸市東灘区住吉東町 2-6-34-301
TEL・FAX: 0743-54-0398　e-mail: book@zion-jpn.or.jp

「私はこうしてイエスを信じた」出張上映のご案内

メシアニック・ジューの証を収録したビデオを、ご希望の教会やグループには、シオンとの架け橋スタッフが出張上映に伺わせていただきます。原則として、スタッフ1名の交通費実費のみ負担をお願いいたします。

出張上映会に関するお問合せ先
TEL・FAX（075）462-8294（坂本）

Jewish Calendar

12月11日　ハヌカ　חג החנכה
旧約外典の「マカバイ書」に記されている、「宮清め」を記念する祭り。特別のメノラを使い、8日間祝われる。

1月30日　トゥ・ビシュバット　ט"ו בשבט
樹木の新年

2月28日　プリム　חג הפורים
エステル記に記されている、ユダヤ民族せん滅計画からの解放を祝う祭り。エルサレムなど城壁のある町では翌日に祝われる。

シオンの喜びとシオンとの架け橋の共同運営するメシアニック情報ホームページ（www.messianic.jp）が立ち上がっています。まだ工事中のページも多いですが、ぜひ一度ご訪問の上、感想をお聞かせください。

シオンとの架け橋事務局

〒616-8228　京都市右京区常盤下田町9　聖書研究会内
TEL（075）861-2619　FAX（075）861-2750
e-mail : news@zion-jpn.or.jp　Homepage : www.zion-jpn.or.jp

献金受入口座　郵便振替 00930-5-241773「シオンとの架け橋」

1. ネティブヤ、オハレー・ラハミーム、マオズ・イスラエル、ピーター・ツカヒラ師、カスパリセンター、キブンへの献金と明記されている場合は、全額を宛先の団体に送金させていただきます。
2. 「イスラエルのメシアニック・ジューのために」と指定の献金は、全額をイスラエルのメシアニック関連団体に献金させていただきます。おもに1.以外の団体に、配分します。
3. 上記以外の特定の目的や団体のための献金をご希望の場合は、ご連絡ください。可能な範囲で、対応させていただきます。
4. シオンとの架け橋のための献金とご指定の無い献金は、イスラエル回復のための国内外でシオンとの架け橋の働きや、その他の働きにあてさせていただきます。

※シオンとの架け橋は、聖書研究会が運営する超教派ミニストリーです。